

## 海づくり大会の舞台に磨き

### 整備エリア射水

2015年秋の全国豊かな海づくり大会の主会場となる射水市で、海王丸パークの周辺一帯の整備が今年度から本格的に動き出す。海王丸パークは新湊大橋の開通もあって観光客が増加しているが、海づくり大会の舞台となることをきっかけに、さらにベイエリア空間を磨き上げ、観光スポットとしての知名度を県内外に定着させたい。

射水市は新湊大橋を中心とした東西2地区に、内川界わいを含めた一帯を「ベイエリア」と位置付けて重点的に整備する。主な事業としては、海王丸パーク内の国土交通省施設「みなと交流館」を購入して観光案内所に再生する。案

内所には観光ボランティアが常駐し、観光客に一帯の魅力を伝え、散策を促す。

また内川沿いは、川の両岸に漁船が停泊し、漁師町独特の町家が連なって「日本のベニス」と称される美しい景観を形成しているが、新年度に川の駅や駐車場に水辺空間を案内する看板を設置するほか、トイレも設ける。エリア一帯の周遊ルートを発信するなどして、回遊性を高めていきたい。

海王丸パーク一帯は、一昨年に新湊大橋が日本海側最大級となる全長600mの斜張橋としてオープンして以来、自動車はもちろん、サイクリングやウォーキングスポットとしても高い人気を呼んでいる。大橋がけん引役となって

海王丸パークの来場者も増加し、昨年は100万人を突破した。

海王丸パークは昨年、NPO法人地域活性化支援センターから「恋人の聖地」に認定され、海王丸での船上結婚式もスタートしている。また県では水辺と光の空間創出検討懇談会の提言を受けて、海王丸や大橋一帯の夜間ライトアップも、LEDなどを生かして今

後さらに洗練していく予定であり、誘客の材料が一段と厚みを増すことになる。

海づくり大会に全国各地から訪れた人たちに、情緒あふれる内川沿いや新湊大橋から遠望する立山連峰の魅力を体験してもらい、ライトアップで未来型に彩られたパーク周辺も印象づけることで、富山有数の観光スポットとして知名度を全国区にしていきたい。